一般質問

町の将来は町民が決めるべきだ

高橋博幸

合併しない施策をやったか

質問

合併しないと言いながら、具体策を示せなかった責任は重大。町長が本気なら、平成14年6月からできたはず。

今議会の町長の報酬減額条例案否決は、町長の姿勢への批判の現われだ。

町長答弁

今後はやはりお金の使い方を変えていくことが大事と思う。

行財政改革に取り組んでおり、秋口には示したい。

力強い自治体を目指せ

質問

今のサービス水準を維持できないことは明らかで、銀行撤退や経済の停滞と、人口減少マンパワー不足に歯止めがかからず、湯沢町の将来に不安が広がっている。

観光産業に特化した町村の危うさも懸念される。

税収もある程度あり、湯沢町のポテンシャルが枯れる前に塩沢町との合併を検討すべきだ。

それにより、観光関連産業、環境を機軸とした農業、情報インフラ整備を踏まえて他の一般商工業、この三本の経済の柱がそれぞれ補完しあうことで、顔の見える力強い自治体を目指すことを考えられないのか。

町長答弁

湯沢町は今まで他町と比べ、圧倒的に行政サービスが良かった。

身の丈にあった行財政改革をやりながら、手堅くやっていくことが、湯沢町の将来としては良いと考えている。

ある程度ガマンしても、それなりの生活ができる。合併したばかりにサービスをそこに合わせて、果たして良いのか？といったときに、湯沢の町民の理解、納得は得られないと思う。

その前にやるだけのことはやって、行財政改革も自らやって、そして町民にご理解をいただき、そのうえで、ならばということで、それから広く町民にアンケートを取るなり意見を聞くことは大切である。

当座は自分で自立したまちを作るべく努力するほうが先決と考えている。

合併特例法改正への対応は

質問

特例法改正や周辺状況を考えると、知事の人口一万人未満町村への合併勧告や、吸収合併が心配される。

町長答弁

法改正は知っている。時代の流れに逆らわずに乗っていくべきであるが、議会の意見や提言、動きを尊重すべきと思う。

高橋議員のような考えの議員が沢山いて、どうだ！というような情勢になっていない。

質問

議会にゲタを預けるようなことではダメ。町長はリーダーシップを持って欲しい。

将来像を示した後、民意を問うべきだ。金に困るから合併せよではなく、将来伸びていくため合併を検討しては、と提案をしている。

野沢温泉は、合併しないアンケート結果が出ても、法定協議会に踏み切り、同時に自立も検討している。それは一方が失敗したら困るからだ。

孫子の代になり、あの時代の町長、議会はと言われることのない、したたかさをもつべきだ。

塩沢町と話し合う機会を設定し、十分協議し、その経過と結果を示して、再度地域の将来像を町民自らの責任において決定すべきと思う。

町長答弁

一昨年合併しないまちづくりということで、いろんな行財政改革をやってきた。

やれるだろうという算段でこれから厳しい中でも、行財政改革を秋口に議会にも示し、統廃合や見直しを図ってやっていこうと思っている。

私は長としてやるだけのことはやる。